



中国服飾史図鑑

全 四 卷

石器時代から二十世紀まで二万年に迫る中国服飾の展開を、
 三千点を超える写真や図解で分かりやすく通観
 衣服や冠帽をはじめ、履物や装身具、髪型や化粧まで
 網羅的に解説するビジュアル決定版！

編著

黄能馥 (元中央工芸美術学院教授)

陳娟娟 (元北京故宮博物院研究員)

黄鋼 (画家・元中央工芸美術学院講師)

監修・翻訳

古田真一 (帝塚山学院大学教授)



発行 科学出版社東京
 発売 国書刊行会
 2018年12月刊行開始
 全4巻 オールカラー



本書の特徴

- ◆中国内外の博物館や研究機関、個人が所有する服飾にまつわる歴史的資料について、総計3000点におよぶ図版を掲載。
- ◆衣服や冠帽はもちろん、履物や多彩な装身具、髪型や化粧、埋葬時に身につけた玉衣服飾まで、身にまとうもの・身体を装飾するもの全般を網羅。
- ◆服飾品・装身具などの現物だけでなく、壁画や布帛画、俑や埴輪など、服飾品・装身具がどのように身につけられていたかを示す具体的用例を掲載。また写真に加え、学術的な考証により描かれた復元図、図解等も豊富に収録。
- ◆服飾のデザインや文様をもつ内面的な意味を、数多くの文献を引用しながら、当時の思想や社会情勢と関連付けて説明。中国歴代の服飾が、時代精神を具現化する様子についても詳述する。
- ◆中国文学や中国史の記述に具体的なイメージを与える圧倒的な視覚資料を提供。作画や設定用資料としてクリエイターにも有用。
- ◆各巻冒頭には、監修者による日本語版オリジナルの概論を付す。

本書をおすすめします

- ◆服飾・服飾史の研究者・愛好家。服飾、ファッション関係の学科、専門学校
- ◆中国文化史・西域文化史の研究者・愛好家、東洋史学科
- ◆中国文学、中国古典籍の研究者・愛好家、中国文学科
- ◆風俗学・有職故実の研究者、日本史学科
- ◆紡績・染織・繊維工学の研究者、工学部
- ◆ファッション・デザイナー、パタンナー、アパレルデザイン会社、テキスタイル・デザイナー、染織家、染織愛好家など
- ◆ゲーム・クリエイター、イラストレーター、漫画家、作画監督など
- ◆大学図書館、県立図書館、市町村立図書館、美術館、博物館、文化財研究所



『中国服飾史図鑑』(全4巻)

【編著】
 黄能馥 (元中央工芸美術学院教授)
 陳娟娟 (元北京故宮博物院研究員)
 黄鋼 (画家・元中央工芸美術学院講師)

【監修・翻訳】(全四巻)
 古田真一 (帝塚山学院大学教授)

【翻訳】(第二～四巻)
 栗城延江

発行：科学出版社東京 発売：国書刊行会

A4変型判/上製・カバー装/
 各巻平均400ページ/オールカラー

第一巻 2018年12月発売
 定価：本体28,000円+税
 ISBN: 978-4-336-06312-0

●以下続刊
 第二巻 2019年5月発売予定
 第三巻 2019年11月発売予定
 第四巻 2020年5月発売予定
 各巻予価：本体28,000円+税

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp> e-mail:info@kokusho.co.jp

取扱店

申込書

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

『中国服飾史図鑑』(全4巻) を _____ セット 定期注文します

『中国服飾史図鑑』第1巻 を _____ 冊 注文します

お名前

ご住所

お電話



備馬図 北齊 山西省晋陽北齊太尉武安王徐顯秀墓室西壁壁画

◆編著者略歴◆

黄能馥 (こうのうふう)
 中央工芸美術学院教授、清華大学美術学部教授、中国書画通信大学副学長、北京現代美術学院名譽学院院长、蘇州大学教授、蘇州シルク博物館顧問などを歴任。専門は染織、服飾。著書に『絲綢史話』(共著、中華書局出版、一九六三年)、『中国美術全集 工芸美術編・印染織繡』(上下巻、文物出版社、一九八五/八七年、第一回国家図書賞最高榮譽賞を受賞)など多数、邦訳書に『中国絹織物全史——七千年の美と技』(共著、科学出版社東京、二〇一五年)がある。



◆関連書のご紹介◆

中国絹織物全史 ——七千年の美と技

黄能馥/陳娟娟 著
 小笠原小枝 監修
 齋藤齊 訳



◆定価
 本体40,000円+税
 ISBN: 978-4-336-05808-9

◆監修・翻訳者略歴◆

古田真一 (ふるたしんいち)
 帝塚山学院大学教授。京都市立芸術大学美術専攻科修了。一九八六年から一九九〇年まで北京大学に公費留学。専門は中国絵画史。編著書に『中国の美術——見かた・考えかた』(昭和堂、二〇〇三年)など、論文に「六朝絵画に関する一考察——司馬金龍墓出土の漆画屏風をめぐる」、『美学』四二巻四号、「宋代における仕女図の表現形成について」、『中国美術の図像学』京都大学人文科学研究所、二〇〇六年、訳書に『中国出土壁画全集』(全十一巻、科学出版社東京、二〇一二年)などがある。



中国出土壁画全集

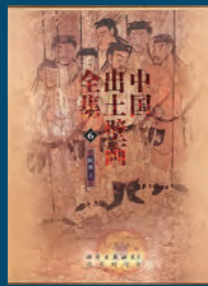
古田真一 監修・翻訳
 徐光冀 総監修

第I期(全5巻)

◆定価
 本体120,000円+税
 ISBN: 978-4-336-05434-0

第II期(全5巻+別巻)

◆定価
 本体130,000円+税
 ISBN: 978-4-336-05435-7



◆監修にあたって◆

中国歴代の絢爛たる服飾文化を網羅した比類なき大著

帝塚山学院大学教授 古田真一

本書は『服飾中華——中華服飾七千年』（北京・精華大学出版社、二〇一一年）の日本語版である。中国の服飾の起源はひじょうに古く、今から一万八千年前の旧石器時代晩期には人々が獣皮を縫って衣服とし、獣骨や石珠を連ねて身体を飾っていたことが出土品から窺える。本書では、そうした旧石器時代から記述が始まり、辛亥革命後の二十世紀までの服飾について、衣服や冠帽をはじめ、装身具、髪型、化粧、さらには織物の種類・技法・文様に至るまで、多方面にわたって網羅的に詳述されており、副題の「中華服飾七千年」をはるかに超え、二千年に迫る中国服飾史の展開を通観できる内容となっている。

本書の最大の特徴は、言うまでもなく豊富な図版を用いた具体的な解説にある。服飾史に関する研究は、正史に載る輿服志などの記述を読み解くことが不可欠であるが、文献の記述からだけでは服飾の具体的なイメージを把握することは容易ではない。それを補充するため、本書では、服飾の実物はもちろんのこと、絵画や彫刻に描写された服飾表現を博搜し、約三千点にものぼる図版によって各時代の服装を余すことなく視覚的に提示しており、本書のページをめくると、中国歴代の服飾のイメージが鮮明に浮かび上がってくることは疑いないであろう。

本書のもう一つの特徴は、各時代の服飾のデザインや文様の意味を、当時の思想や社会情勢と明確に関連づけて説明している点である。中国の服飾は、単に身体を保護し装飾するといった実用的な目的を超え、時代精神を具現化する機能も備えていた。本書では、そうした視点から、各時代の服飾の形状・材質・文様・色彩・数量などの

内面的な意味について、数多くの文献を引用しながら解き明かしている。本書を通観すれば、中国の服飾が各時代の社会を濃厚に反映していることや、どの時代においてもファッション性が追求され、時には異国の服飾文化と融合しながら、絢爛たる服飾文化を形成していったことが理解できよう。最新の研究成果を存分に盛り込んだ本書が、研究者のみならず、中国文化に関心の多い多くの人々にとって有益な書籍となり、様々な場で広く活用されることを期待したい。



組佩瑣 周 河南省三門峽市 魏国貴族墓出土



太陽神鳥金箔飾



車歌図（部分）

組見本(原寸60%縮小)

図4-13 秦軍の編み髪髪型図 頭髪と紐と一緒に編み込んでいるであろう。

図4-14 秦軍の冠のつけ方

図4-15 符冪備 (図4-1頭部) 図4-16 中級軍吏備(図4-2頭部) 図4-17 秦代戦車取手備 圖 圖4-18 頭に赤絲環をかかった秦代歩兵備 (秦部) 圖4-19 頭に赤絲環をかかった秦代歩兵備 (秦部) 圖4-20 頭に赤絲環をかかった秦代歩兵備 (秦部)

図4-19 秦・漢時代の服飾

図4-10 銅馬車取手備 秦 秦始皇帝陵陪葬坑出土

取手備

図4-11 取手備と銅馬車 秦 1980年、陝西省臨潼縣秦始皇帝陵西側出土 全体像 取手・高さ95cm 馬車・高さ152cm 長さ225cm

図版にはそれぞれ詳しい説明が付される

時代・テーマ別の概説は総合的理解を深める

復元図や図解でより分かりやすく

総計3000点におよぶ図版を収録



(原寸26%縮小)

「五」女性の男装

第一巻 目次

第一章 中国服飾の黎明

- 一 中国における服飾の誕生
 - (一)人類の進化発展のレベルを示す服飾
 - (二)人類の祖先における進化発展の歴史
 - (三)人類発祥の地の一つである中国
 - (四)中国における衣服誕生への第一歩
- 二 中国原始の服飾の発祥期
 - 中国服飾芸術のあけぼの——新石器時代
 - (一)紡織の発明と創造
 - (二)独自の特徴を備えた服飾様式
 - (三)豊富で華麗な原始の装身具

第二章 夏・殷・西周時代の服飾

- 一 制度としての服飾
 - (一)夏・殷・西周における服飾文化の背景
 - (二)階級による服飾品の独占
- 二 夏・殷・西周の章服制度
 - (一)礼服
 - (二)一般の服装
 - (三)冠履
 - (四)戎服(軍服)
 - (五)文飾に見られる「十二章」
 - (六)考古史料に見られる「十二章」
 - (七)夏代の服飾
 - (八)殷代の服飾
 - (九)西周の宗法制度、及び「中華」「華夏」の名称の由来
 - (十)西周における衣服の生地
 - (十一)西周時代の着装人物資料
 - (十二)周時代の装身具

第三章 春秋・戦国時代の服飾

- 一 中国服飾文化における変革の第一歩

第四章 秦・漢時代の服飾

- 一 服飾文化が総合的に発展した時代
 - 秦の始皇帝時代における強力な軍隊
 - (一)〇世紀における世界考古学の奇跡
 - (二)秦軍の服飾
 - 中国の絹が西方世界に及ぼした多大な影響
 - 漢王朝の服飾制度
 - (一)漢代の冠制
 - (二)漢代の朝服
 - (三)漢代の一般の服装
 - (四)漢代の鞋履
 - (五)絵画・彫刻に表された服飾
 - (六)漢代の喪服
 - 出土品にみる漢代の服飾資料
 - (一)衣服と布地
 - (二)前漢から後漢
 - (三)三國に至る服飾文様の変遷
 - 秦・漢代の装身具
 - (一)髪飾
 - (二)耳飾
 - (三)頸飾
 - (四)臂飾
 - (五)指環
 - (六)帯鉤
 - (七)玉
- 二 考古学的な発掘品に見る春秋戦国時代の服飾文化
 - (一)春秋戦国時代における服装の材料
 - (二)春秋戦国時代の装身具
 - (三)春秋戦国時代の服装形式
 - (四)春秋戦国時代の服飾文様

第五章 魏晉南北朝時代の服飾

- 一 魏晉南北朝時代における服飾文化の特徴
 - (一)漢服と胡服の相互伝播
 - (二)襦袴・褙袴・半袖衫の流行
 - (三)箭袖・面紗・明光靴
 - (四)冠帽形式の変遷
 - (五)知識人における服飾の気風
 - (六)女性の服装の変遷
- 二 考古学的な発見による南北朝時代の服飾品
 - 魏晉南北朝時代の装身具の実物
 - (一)髪飾
 - (二)頸飾
 - (三)耳飾
 - (四)臂飾
 - (五)金奔馬飾
 - (六)玉環
 - (七)指環
 - (八)帯具
 - 敦煌壁画に見られる服飾

◆第一巻「先史時代」魏晉南北朝
二〇一八年十二月刊行
ISBN: 978-4-336-06312-0

◆第二巻「隋」元
第六章 隋・唐・五代
第七章 宋
第八章 遼・西夏・金・元
二〇一九年五月刊行予定
ISBN: 978-4-336-06313-7

◆第三巻「明」清(上)
第九章 明
第十章 清(上)
二〇一九年十一月刊行予定
ISBN: 978-4-336-06314-4

◆第四巻「清(下)」二〇世紀末
第十一章 清(下)
第十二章 太平天国の乱
二〇世紀末
二〇二〇年五月刊行予定
ISBN: 978-4-336-06315-1

全巻構成と記本予定